希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災

サポート情報

17日現在

入浴

自衛隊が18日に設置予定の仮設風呂の場所と時間。タオルは持参、貴重品は自己管理する。

＜岩手県＞
津軽石小（13～22時）▽山田高（10～21時）▽シープラザ釜石（12～21時）▽大船渡市リアスホール（10時～21時半）▽米崎小（13～22時）▽大槌町ふれあい公園（12～21時）

＜宮城県＞
気仙沼市民会館（女性8時～13時半、男性14～20時）▽本吉総合体育館（男性10～13時、16～19時、女性13～15時、19～21時）▽南三陸町ベイサイドアリーナ（13～20時）▽女川総合運動公園（8時半～20時半）▽石巻市消防本部グラウンド（10～21時）▽石巻市立図書館（女性9～13時、受け付け終了12時半、男性14～18時、受け付け終了17時半）▽サン・ファンパーク（13時～20時半）▽荻浜小（12時～15時半、シャワーのみ）▽山下小（15～22時）▽亘理町中央児童センター（13～21時）▽逢隈中（15～21時）▽鹿妻小（16～20時、シャワーのみ）▽万石浦中（12～20時、シャワーのみ）▽牧山市民の森第1駐車場（15～20時、シャワーのみ）▽青葉中（14～20時、シャワーのみ）▽大塩市民センター（女性14～17時、男性17時半～20時半。シャワーのみ、18日で終了）▽小野市民センター（男性14～17時、女性17時半～20時半、シャワーのみ、18日で終了）▽航空自衛隊松島基地（男性11～13時、女性14～16時）

＜福島県＞
あづま総合運動公園（13～21時）▽旧春山小（15～17時、18～21時）▽ビッグパレットふくしま（乳幼児14時半～15時、一般15～21時）

◇
民間の無料入浴施設、営業時間など変更の可能性あり、利用の際は各施設に問い合わせを。

＜岩手県＞
民宿海楽荘（大船渡市末崎町大浜）9～20時。無料。宿泊も可。☎0800・1820・7047

＜宮城県＞
別府温泉あったかプロジェクト「東北別府温泉」（南三陸町志津川磯の沢）　大分県別府市の若手経営者でつくる「別府観光産業経営研究会」が、別府温泉の源泉を使った無料の風呂を開設している。10～18時。10人ずつが1回30分ほど入浴できる。タオル、うちわ、ブラシなどの提供あり。7月末まで。問い合わせは同研究会☎0977・25・3311（野口さん）

＜福島県＞
飯坂温泉（福島市飯坂町）　避難所で配布された無料入浴券で、「鯖湖湯」など9カ所の共同浴場を利用できる。飯坂温泉観光協会☎024・542・4241

UFOふれあい館（福島市飯野町）　避難所で配布された無料入浴券で2階展望風呂を利用できる。同館☎024・562・2002

医療

19日の各地の休日当番医は次の通り。

＜岩手県＞
釜石地区＝釜石整形☎0193・31・1881▽気仙地区＝希望ケ丘病院☎0192・53・1019

＜宮城県＞
河北地区＝木村医院☎0225・62・3039▽矢本地区＝かしわや内科クリニック☎0225・83・2003▽気仙沼・唐桑地区＝佐々木小児科☎0226・22・6811、中原クリニック☎0226・23・1028▽石巻市＝斎藤病院☎0225・96・3251、石巻市立病院仮診療所☎0225・23・3200、川村産婦人科☎0225・93・7600

＜福島県＞
相馬市＝やまぐち小児科☎0244・37・8815、わたなべ歯科☎0244・36・2345▽南相馬市＝しいな脳神経外科☎0244・23・1747▽いわき市＝ながい小児科☎0246・28・2535、櫛田病院☎0246・63・3202、みずたに耳鼻咽喉科☎0246・73・1187、吉成内科☎0246・42・2220

イベント

＜宮城県＞
「ハーモニー届け隊～サーカスふれあいコンサートin宮城～」　コーラスグループ「サーカス」が歌を披露するほか、地元高校の合唱部員やママさんコーラスグループと合唱する。18日14時～16時半、塩釜高校東キャンパス音楽室▽19日8～11時、ゆりあげ港朝市（イオンモール名取エアリ西側駐車場）▽同15～17時、山元町中央公民館▽20日14時～15時半、七ケ浜町国際村ホール▽21日13～15時、気仙沼市大島開発センター。

＜東京都＞
麻布十番「信州農林産物まつり」東日本大震災・長野県北部地震　復興応援マーケット　18、19日10～16時、港区麻布十番2のパティオ十番。被災地の福島県いわき市や長野県栄村などの生産者が、特産の山菜や野菜、ジャム、リンゴジュースなどを販売する。

キャンドルナイト　東京ミッドタウン（港区）は18日19～22時、東日本大震災の被災地復興への祈りを込めて、芝生広場に約2500個のキャンドルをともすイベント「東京ミッドタウンキャンドルナイト～みんなの想いを笑顔でつなごう」を開催する。同日15時まで、東京ミッドタウン・ガレリア地下1階特設会場で、キャンドルカップに書き込むメッセージを募集。参加費は1個500円で、日本赤十字社を通じて被災地復興に役立てられる。雨天決行、荒天中止。

ボランティア

がんばっぺ！岩手　大槌川ボランティア募集

ふるさと清掃運動会実行委員会（委員長・王貞治ソフトバンクホークス会長）が、岩手県・大槌川の清掃ボランティアを募集している。大槌川はサケの遡上（そじょう）で知られるが、津波で多くのがれきが打ち上げられた。再びサケがさかのぼれる美しい川を取り戻そうと、2泊3日のバスツアーを実施する。現地の要請で、引っ越し支援や泥かき作業をしてもらう場合もある。

7月8日22時半に東京都千代田区一ツ橋1の毎日新聞社を出発→9日朝大槌町着でボランティア活動→夜は花巻温泉泊→10日は中尊寺を見学し、20時に東京帰着。費用は1万8000円。問い合わせと申し込みは事務局☎03・3212・0035へ。

ミニニュース

■ボランティア国際年十10推進委員会設立記念シンポ「東日本大震災における被災地の現状から考える」　28日14時半～17時、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センター。被災地支援を通して見えてきたコミュニティーづくりや市民活動の課題を検討する。

災害時の障害者支援に取り組む「ゆめ風基金」の八幡隆司理事▽国際協力NGO「ACE」の岩附由香代表▽福島県郡山市の避難所ビッグパレットで自ら避難生活を送りながらボランティアセンターをつくった古内伸一・川内村社会福祉協議会職員――の3人がパネルディスカッションをする。

参加無料、先着160人。申し込みは▽シンポジウム名▽氏名▽所属団体▽電話番号▽ファクスまたはメールアドレス――を明記し、ファクス（03・3581・7858）かメール（info@hirogare.jp）で。問い合わせは事務局☎03・3581・4656。

新品でお願いします

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■共同支援ネットワーク

（仙台市）kyoudounet@gmail.com
http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

生活物資の支援を　仙台市や石巻市の被災者が、次のような生活物資を求めている。

タオル地のパッドシーツ▽体重計1台▽ジュニアシート3個▽コーヒーメーカー10台▽インスタント・ドリップコーヒー▽コーヒー用粉クリーム▽スティック砂糖▽缶詰類（果物、魚、肉）▽ご飯以外のレトルト・保存食品。

※共同支援ネットからお願い　物資はなるべく新品でお願いします。被災者の方にできるだけ気持ちよく使っていただきたいからです。みなさまのご理解とお心遣いをお願いします。

■遠野まごころネット

（岩手県遠野市）☎0198・62・1001
tonomagokoro@gmail.com
http://tonomagokoro.net/

ニーズ情報

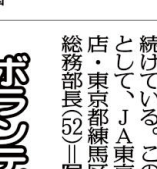
岩手県大槌町赤浜地区

でもハエ大発生　気温上昇に伴い、ハエが増えて衛生上の不安が増している。避難所や仮設住宅では、飾り付けかと見間違えるほど多くのハエ取りシートがつり下げられている。ハエ取りシート▽食卓カバー▽防虫スプレー――など虫よけグッズをお願いします。

ボランティア

農業再開へ「支援隊」

JAグループ　現地に700人超派遣



津波で生きる糧の農地や農業施設に大きな被害を受けた農家が一日も早く立ち上がれるようにと、JAグループは全国からボランティアを募り、4月から被災地に「支援隊」を送り続けている。この活動の一環として、JA東京あおば（本店・東京都練馬区）の鈴木裕総務部長（52）＝写真＝は5月半ば、福島県浜通り地方の北端にある新地町と相馬市を訪ねた。

担当したのは営農センターにある穀物乾燥貯蔵施設と種苗施設。海岸線から約2キロ離れているが2メートルの津波を受け、流れ込んだヘドロやがれきが手付かずの状態だった。

薄明かりしかない貯蔵施設からの泥出しは、特に過酷な作業だった。密閉性のある施設のため湿気が高く、腐った米のにおいが充満してマスクをしても呼吸が苦しかった。

4泊5日で必死に作業したが、きれいになったのはほんの一部。「まだまだボランティアのニーズがあると感じた」という。海水につかった水田も手付かずのままで、稲作を再開するには、塩分を抜くための長く地道な作業が必要だ。

支援隊の派遣数は既に700人を超えたが、「希望者が減る気配はまったくない」という。事務局は「まずはマイナスをゼロに戻すために、今後もボランティア派遣を続ける」とする。

鈴木部長は「相馬地方は福島第1原発から程近く、先行きは極めて不透明。だが、活気ある農業が再開される日を想像して、また支援に行きたい」と話している。【丹野恒一】

農業施設で泥出しのボランティアに励む「支援隊」のJA職員ら＝福島県新地町で5月

イチゴ作り一歩ずつ

声　被災者から

ハウスの残骸を片付けていた小野美佐子さん（右）と長女の浜田須美恵さん

宮城

亘理町長静（ながすず）でイチゴを育てていた小野美佐子さん（58）「津波で大型のビニールハウス3棟が流されてしまい、苗もなくなってしまいました。県が研究開発した新品種『もういっこ』を生産して2～3年たち、ようやく名前が知られてきたところでした。一緒にイチゴを作っていた長男は、既に別の仕事に就きました。夫とは『少しずつでいいからイチゴを作りたいね』と話しています。粒が大きくて甘みと酸味が絶妙でおいしいですよ」【飯田和樹】

福島

福島市のあづま総合体育館で避難生活を送る葛尾村の畜産業、岩間政金さん（85）「牛を飼っていますが、廃業します。自宅も半壊し、原発でいつ帰れるかも分かりません。退屈な避難所暮らしですが、避難している（よその家の）子供と一緒にこま回しやカルタなどをして遊んでいます。子供たちはにぎやか。こんな時ですが、子供たちの笑顔を見て元気になります」【佐野優】

避難所で子供たちと遊ぶ岩間政金さん（中央）

伝言板

「精製水 必要量に達しました」

▼コンタクト用精製水の支援続々　17日の掲載を受け、岩手県陸前高田市の菅野光子さんの難病の長男が使う加湿器用の水として、「コンタクトレンズ用の精製水を送ります」との申し出が、希望新聞に約70件寄せられました。必要量に十分達したので受け付けを終了します。ご厚意、ありがとうございました。

連絡をくださった方々は、「開店と同時に精製水を買ってきました」「家族が人工呼吸器を使っています」「飲料水も送ります」と話していました。菅野さんは「こんなに送ってくださる方がいるとは、びっくりしました。保健師さんや知人を通じて、同じように人工呼吸器を使う人たちにも渡したい。皆さんありがとうございました」と感激した様子でした。

▼関西の避難者交流会　20日午後2時、大阪府岸和田市土生（はぶ）町の土生神社社務所（JR東岸和田駅から徒歩約10分）で、「東日本大震災県外避難者交流会」を開きます。無料。お茶とお菓子をつまみながら、関西に避難した人たちが情報交換できる場です。今必要とする支援を聞かせてもらえれば、行政やNPOなど関係機関につなぎます。主催する阪井健二宮司（46）は「既に交流会が開かれている大阪市や堺市同様、気軽に集まってもらえれば」と呼びかけています。問い合わせは土生神社（☎072・426・7287）。

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

＜岩手県＞
県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。
◆県VC　☎019・637・7594　サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中
◆遠野市VC「遠野まごころネット」　☎0198・62・1001　遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可
◆宮古市VC　☎090・4478・3984　個人、団体とも1週間前までに電話連絡を
◆陸前高田市VC　☎090・2852・9736　できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡
◆大槌町社協VC　☎080・3518・8490　5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞
各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。
◆仙台市VC　☎022・231・1326　5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み
◆石巻市VC　☎0225・23・6015　10人以上の団体は要事前連絡
◆気仙沼市VC　☎080・5949・7475　10人以上の団体は3日前までに事前連絡
◆名取市VC　☎022・784・3029　団体は要事前問い合わせ
◆多賀城市VC　☎080・5949・7501
◆岩沼市VC　☎080・5949・7541　8人以上の団体は要事前申し込み
◆東松島市VC　☎0225・82・9812　車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを
◆亘理町VC　☎080・5949・7719　団体は要事前申し込み
◆山元町VC　☎080・5949・7720　要事前申し込み
◆七ケ浜町VC　☎090・6853・4490　団体は要事前申し込み
◆南三陸町VC　☎080・2055・1066　県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞
◆県VC　☎024・522・6540
◆相馬市VC　☎0244・36・7827
◆南相馬市VC　☎0244・24・1877　公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を
◆新地町VC　☎0244・62・5577　要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止
◆いわき市VC　☎0246・22・5501　団体は要事前申し込み

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連　0120・755・199（9～18時）
放射線医学総合研究所相談窓口　043・290・4003（9～17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10～15時）
岩手弁護士会　0120・755・745（月～土曜13～16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10～19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14～16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン　0120・99・7777（月～土16～21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時）

●省庁　※平日のみ
公営住宅等情報センター　0120・297・722（9～18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省）　0120・330・712（月～土）
行政相談（東北管区行政評価局）　0120・511・556
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）　0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険　※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会）　0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会）　0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市　高田町鳴石　0192・54・2111
釜石市　シープラザ釜石　0193・22・8253
大槌町　大槌小学校　0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町　女川第二小学校　0225・54・3131
南三陸町　町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎　0226・46・2600
＜福島県＞
広野町　FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場　0246・43・1331
楢葉町　会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町　郡山・ビッグパレット　0120・336・466
川内村　郡山・ビッグパレット　0120・38・2119
大熊町　会津若松市追手町第2庁舎　0242・26・3844
双葉町　旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町　県男女共生センター（二本松市）コールセンター　03・5638・5055
葛尾村　旧法務局会津坂下出張所　0242・83・0271
★一時立ち入り受付センター0120・208・066　警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8～20時

三陸物語　Sanriku Monogatari

全盲の鍼灸師（しんきゅうし）　藤原正さん ❺

暗幕巻いて、肩寄せ合い

津波で大きな被害を受け、地震発生から2日たっても炎があがる岩手県大槌町の市街地にある家屋＝3月13日、本社ヘリから野田武撮影

津波に火事が重なり、1600人余りの死者・行方不明者を出した岩手県大槌町。藤原正さん（53）が妻子と山を越えて町西方の城山の体育館にたどり着いたのは、たそがれ時だった。

この間の彼の記憶は断片的だ。山の斜面に幾度も足を取られ、尾根では寒風に歯を鳴らし、津波で町がどうなったのか状況がほとんどつかめずに頭が混乱していたそうだ。

「見える人は目でとらえ、見えない人は心でとらえる」とは藤原さんの解説。彼は途中で会う人ごとに問い掛けた。「どこまで津波が来たのか」「家や車はどうなった」「火事はどこで起きているのか」。それをモザイクのように重ねてイメージをまさぐった。

体育館は「人の気配」が満ちていた。床に座って周囲から町の情報を仕入れ、ラジオで東日本の被災状況を知る。夜になって娘たちが「窓の外がオレンジ色だ」と教えてくれた。街の火災がガラスに映るらしい。じきに「まずいんでねえか」とのささやきが広がり、町の職員が「車の人は別の場所に移動してください」と告げた。「車ねえ人」は「待機」になった。

夜の深まりとともに寒さも増す。誰かが体育館の暗幕を切って、「みんなで巻いてください」と配っている。それを手に体育館2階の椅子席に上がると、女性が歯を鳴らしながら訴えた。「死ぬとこだったの」。聞けば、「車で走行中に津波に流され、警察官に窓を割って引きずり出してもらい、後は泳いで助かった」という。服はずぶぬれで、油のにおいが染みついている。

妻の美幸さん（43）が役所の人に掛け合って毛布を調達し、彼女に渡す。そして、藤原家の5人と長女の友達とその女性の計7人が、肩を寄せ合い1枚の暗幕をみんなで巻いて夜を越した。【萩尾信也】

◇
「三陸物語」は火～土曜日に掲載します。